

県政改革！



千葉県議会議員（船橋市選出）野田 剛彦（のだ たけひこ）

昨年4月に実施されました地方統一選挙において、多大なるご尽力を賜り誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。千葉県議会選挙の船橋市選挙区は定数7に対し、10名が立候補しました。報道によれば県内で最も激戦といわれた選挙区でしたが、お蔭様で県政史上最高得票の46,520票を獲得し、トップ当選を果たしました。選挙戦を振り返って、私が誇りに思うことは得票数についても勿論ですが、公職選挙法違反やその疑いで、選挙管理委員会や警察から注意・警告された件数が0^{ゼロ}だったことです。有権者にはあまり知られていませんが、選挙期間中は、候補者名を記したのぼり旗を掲示することや、公営掲示板以外の場所に候補者の写真や氏名が記されたポスターを掲示することなど、多くのことが公職選挙法に違反します。しかし私は「法をつくるもの、法を犯すべからず」の精神で戦い抜きました。他の候補者の動向は関係ありません。また県議選の後に行われた船橋市議選でも、民主党の同志が「法をつくるもの、法を犯すべからず」の精神で選挙戦を戦い、やはり注意・警告件数は0^{ゼロ}でした。船橋市議選も定数50に対して、73人が立候補する激戦でしたが、お陰様で1位、3位、9位、12位と、それぞれ上位当選を果たしました。有権者、支持者の皆様の期待に応え、選挙で勝たなければならない。しかし勝てばいいというものでもない。「最強」と「最良」を同時に追い求めるのが私たち民主党千葉県第四区総支部の戦い方です。

■社会的弱い人に政治に光をあてたい

さて私の基本姿勢ですが、今の政治は強い人をより強く、富める人をより富めるようにして社会や経済を引っ張らせ、いずれは全体が豊かになるという政治です。社会や経済を引っ張っている強い人や大きな会社は日本の発展のために必要な存在です。そして強い人や大きな会社が成功に至るまでに払った努力は称えられ、正当に評価されるべきものだと思います。また富める人がお金をたくさん使うことで、そのお金がいろいろなところに出回り、社会が豊かになる。経済が活性化。社会や経済のそのような側面も否定しません。しかし今、それに取り残されてしまいそうな人たちがいます。

私は取り残されてしまいそうな人たち、社会的に立場の弱い人たちに政治の光をあてたいと考えています。富める人より貧しい人、男性よりも女性、健康な人よりもケガや病に苦しむ人、健常者よりも障害者、子どもや高齢者。社会的に立場の弱い人が住んでよかったと心底思える社会は、どなたにとっても住みよい社会だといえるのではないのでしょうか。そして私は常に社会的に立場の弱い人たちに寄り添っていきたくと考えています。それこそが民主党の目指す政治です。

■災害発生時の「ヘリサイン」で質問

そのような基本姿勢の下、日々活動すべく心掛けていますが、昨年10月7日に県議会一般質問を行う機会がありましたので、そのご報告を致

します。まずは「ヘリサインについて」ですが、ヘリサインとは災害が発生した際に、救難活動を行うヘリコプターが、上空から容易に施設が識別できるよう、建物の屋上などに施設の名前を表示するものです。東日本大震災で救難活動にあたったヘリコプターのパイロットの体験談によりますと、地元消防の要請を受け、小学校に避難している重症患者の病院搬送をした際に、土地勘もなく、災害により周囲の状況は一変し、しかも似たような学校がたくさんあって、目的とする学校がわからない、混乱の中、GPSも役に立たないなどにより、別の場所に降りてしまうことが、たびたびあったそうです。そのようなことを防ぐのに必要となるのがヘリサインです。その整備状況を見ますと東京が1,385カ所、神奈川が776カ所なのに対し、千葉県はわずか219カ所です。しかも災害時に避難所となる小・中学校への整備ではなく、その多くは県の施設です。

東日本大震災の例を挙げるまでもなく、救難活動にあたるヘリコプターが着陸したのは、避難所である小・中学校の校庭でした。ヘリサインはいわば表札のようなものです。県の施設を目印に避難所である小・中学校を目指すというのは、Aさんのお宅に行くのに、何軒も離れている表札のあるBさんのお宅を、まず探し当てなければならないというのと同じです。そして一般質問では、県が県施設にヘリサインを整備することよりも、災害時に避難所となる小・中学校に市町村が整備することを優先すべき旨の質問をしました。



それに対する知事の答弁は、災害時に避難所となる小・中学校へヘリサインを整備することは大変有効であり、その整備を市町村に働きかける。

また「千葉県地域防災力向上総合支援補助金」の対象事業に、市町村がヘリサインを整備することも、新たに付け加えることも検討する旨のものでした。そしてそれは実現しました。また私のヘリサイン整備の提案は、多くの市町村議員のご賛同を頂き、それぞれの議会でも提案され、県内で広がりを見せています。

■土砂災害防止対策の充実を

次に「土砂災害防止対策について」、多くの県民がご存知ないことですが、平成13年の調査によりますと、関東で1番多くの土砂災害危険箇所を抱えるのは千葉県で、その数は実に9,764箇所です。ちなみに船橋市には60箇所の土砂災害危険箇所があります。土砂災害防止法に基づき、県は基礎調査をすることが義務づけられていますが、この60箇所のうち、危険度が高いとされる重点箇所26箇所についての基礎調査は終わっているものの、残りの34箇所の基礎調査はまだ終わっていません。また、この60箇所を土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域に区分して区域指定しなければなりません。船橋市の土砂災害危険箇所で区域指定された箇所は未だありません。ゼロです。区域指定がなければ、警戒避難体制の整備をする、住宅等の新規立地の抑制をする、あるいは既存住宅の移転促進をすることなど、実際に土砂災害の被害を防ぐという段階に進むことはできません。土砂災害危険箇所の基礎調査を終わらせるのは平成31年まで（千葉県は関東で1番遅い終了予定）とされていますが、現在の進捗状況から勘案しますと、平成31年までに完了というのは、難しいでしょう。命にかかわることですから、現状の基礎調査、警戒区域の指定などに係る事務・作業のペースを早める必要があります。そもそも土砂災害防止対策に係る予算や職員数が不足しています。

また、平成16年に県が公表した船橋市の土砂災害危険箇所の中に、平成22年の大雨と平成23年の東日本大震災の際の被災箇所が含まれていませんでした。2度にもわたり、土砂災害にあった被災箇所が土砂災害危険箇所のリストに入ったのは、

被災後の平成24年になってからです。ですから土砂災害危険箇所の選定の仕方にも疑問があります。このような土砂災害防止対策についての問題点を指摘し、改善を求めました。

ちなみに、その後に開かれた文教委員会では、土砂災害危険箇所内に、災害時に避難所ともなる公立学校が多数あり、その対策がなされていないことを指摘し、その改善も求めました。このことについては10月22日の千葉日報の一面で「**土砂災害警戒区域に41校**」という記事になりました。記事の内容は「局地的な豪雨に伴う土砂災害を防ぐため県が指定した『土砂災害警戒区域』に、県内の公立学校（幼稚園・小中学校）41校が存在していることが県のまとめで分かった。このうち、小中高の29校は市町村が避難所として指定。県教委は『記念塔など避難時に人が立ち入らない場所もある』とする一方で、市町村に対し安全性の確保を徹底するよう求めている」で、これは10月15日に開かれた文教委員会における私と県のやりとりを記したものです。

■県内に骨髄移植ドナー制度を拡げよう

また「**骨髄移植ドナー支援事業について**」ですが、ドナーとは提供者という意味で、骨髄バンクにドナー登録する人が、多ければ多いほど、骨髄を提供しようとする人が、多ければ多いほど、それだけ白血病などから救われる人の数は増えます。骨髄バンクに登録されて、ドナーを必要する人と白血球の型が適合し、ドナーに選ばれたならば、確認検査等で約4～5日間、入院することになります。入院費等は一切かかりませんが、仕事をお



休みする際の休業補償はありません。そして、それがドナー候補が多数見つかったとしても、移植を必要とする人たちの約6割にしか、実際に骨髄移植が行われていないという骨髄移植における大きな障害でもあります。この問題を解決するために、埼玉県は県内の市町村と協力し、ドナー休暇のない職場を対象に休業補償制度を設けました。また島根県はドナー休暇制度を導入している県内の事業所への助成制度を導入し、県内の事業所にドナー休暇制度を普及しようとしています。千葉県でも習志野市と我孫子市には、骨髄移植ドナー支援事業助成金制度がありますが、県内の他の市町村にはこのような制度はありません。そこで私は千葉県もドナー休暇のない職場のドナーを対象とする休業補償制度や、ドナー休暇制度を導入している事業所への助成制度をつくるべきとの提案を致しました。現在、県との交渉はもう少しといったところですが、船橋市との交渉には手応えがあり、おそらく新年度の新規事業となるでしょう。

その他にも「**救急・救命体制の充実について**」「**自治体病院への財政負担について**」「**投票率の向上について**」等も取り上げましたが、紙面に限りもあります。これらについては、またの機会にご報告できれば幸いです。

結びにあたり一言。理不尽な公務員バッシングが横行しています。公務員への叱咤激励ならば分かりますが、誤解や偏見を助長するような理不尽なものもあります。誰かを標的にし、敵をつくることによって、その他の共感を得て支持を獲得しようとする政治手法、大阪にある。昔のドイツにもあった。私はそのような政治手法には与さない。頑張れ公務員！ 今年も共に頑張らしましょう！

野田たけひこ プロフィール

1961（昭和36）年、千葉県船橋市に生まれる。法政大学卒業後、サラリーマン生活を経て、実兄の野田佳彦衆議院議員の秘書となる。1999（平成11）年から船橋市議会議員を4期務め、2015（平成27）年4月に千葉県議会議員に当選。